

福祉学生の対象者別イメージ比較 — ホームレスと精神障害者イメージから —

占部尊士・大西 良・辻丸秀策・福山裕夫

Comparison of each object person's image — The axis of Homless form image —

Takashi URABE, Ryo ONISHI, Shusaku TSUJIMARU and Hiroo FUKUYAMA

【抄録】本研究の目的は、福祉を学ぶ学生の対象者別（ホームレス、精神障害者）イメージについて調査し、その比較によってホームレス支援の担い手である学生の実態を把握することであった。調査の結果、以下のことが明らかとなった。①ホームレスイメージのほうが、精神障害者イメージに比べて否定的であった。②性別による平均値の違いでは、男性に比べて女性で平均値が高くなっており、女性で否定的なイメージとなっていた。③学年別の平均値の差をみると、学年が上がるにつれて平均値は低下しており、1年生に比べて3年生で肯定的なイメージとなっていた。④ホームレス支援へ希望が強い学生のほうが、肯定的なイメージを抱いていること。⑤ホームレスイメージも精神障害者イメージもともに多様であったが、双方に共通するイメージとして「縁遠さ」「活動性」「近寄り難さ」の3因子があげられた。このような結果から、学生と対象者（ホームレス、精神障害者）とを隔てているものに、対象者との関係性の希薄さ、情報の少なさが原因となっていることが示唆された。

【Key word】福祉学生 イメージ分析 福祉教育

はじめに

近年の経済・雇用情勢悪化により、都市部だけでなく地方においてもホームレスが増加しており、社会問題となっていることが「ホームレスの実態に関する全国調査報告書」により示された。そもそもホームレスとは、これまで路上生活者、住所不定者などと呼ばれてきた者の総称であり、単に住む家を喪失しているだけでなく、そのことによりあらゆる市民の権利、社会の正当な構成員としての資格が結果として剥奪され、排除されているきわめて深刻な極貧の一形態であるとの位置づけがなされる。現在、各地方自治体においても、2002年8月に施行された「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に基づいたホームレスの自立支援策が始まっている。具体的には、総合相談体制の確立、保健及び医療の確保、就労支援及び自立支援センターの整備・運営、地域福祉の推進、予防支援等である¹⁾。

その中でも巡回相談支援は最優先に取り組むべき事業であり、自立支援において重要な位置づけとなっ

ている。自立支援を行う相談員は、ホームレスを取り巻く問題が「雇用」「家族」「住居」における要素と複雑に絡み合い、そしてそれらは社会的にも大きな変容を見せており、また産業や環境等の違いにより都市部や地方におけるホームレスのおかれている状況（出身地域及び家族関係、日雇い等による収入、健康状態、民間支援体制等）にはそれぞれ違いがあるため、地域の特性に合わせた自立支援の方法と適切な社会資源の活用に優れ、ホームレスが生活していくうえでの困難を把握し、その困難を克服する援助能力を身につけておかなければならないとされる²⁻³⁾。しかしながら現在、福祉教育の場においては、ホームレスに対する具体的な支援方法についてのカリキュラムは組み込まれておらず、専門の相談員が養成・配置される体制はとられていないのが現状である。これには未だ社会全体が貧困を「自助努力の欠乏」として捉える傾向があり、ホームレスもその延長線上であるとした考え方が根強く残り、福祉の教育の場においても同様の概念に捕らわれていると考えられる。

そこで本研究では、福祉を学ぶ学生の対象者別イメージについて調査し、その比較によってホームレス支援の担い手養成状況の把握と今後の福祉人材教育のあり方について検討することを目的とする。

調査方法

1) 調査対象 福岡県の福祉系専門学校生206名、1年生89名(男性26名,女性62名,性別不明1名),2年生88名(男性17名,女性71名),3年生29名(男性11名,女性17名,性別不明1名)

2) 調査時期

平成17年10月中旬

3) 調査尺度の説明

本研究では、学生の抱くホームレスイメージと精神障害者へのイメージを測定するものとして、Semantic Differential Method(以下SD法)を用いた。SD法は、Osgood, C.E(1952)が最初に理論構成を行ったもので、もともとは、言語の意味の測定法として開発されたものである。その後、ひとが色彩、音楽、絵画、商品、人物など広い範囲にわたる事象に対して抱く意味あるいはそのイメージを測定する方法として利用されるようになった。本研究では大石(1974)や井上ら(1985)が心理学や教育学の分野で用いパーソナリティの測定に有効であるとする形容詞対49項目の中から使用頻度の高い22項目の形容詞対を用いた。また、回答は、22項目の質問ごとに5段階の尺度(「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」の両極回答)のうちいずれかの回答を選択させる。評定尺度の配点は、1, 2, 3, 4, 5と配点した。したがって、得点の低いものほど肯定的なイメージであり、得点が高いほど否定的なイメージとなる。

また、その他に、性別、学年、ホームレス支援への希望について尋ねた。

4) 手続き

調査票を配布するにあたり、学生へは研究目的を説明して了解を得た。また、本調査の結果について文書にて説明を行った。調査票は、講義中に配布、

回収を行った。

5) 統計解析

解析には、統計パッケージSPSS 11.0 J for Windows 統計ソフトを使用した。なお、イメージの因子抽出では因子分析、平均値の差の検定ではt検定、各設問とイメージ項目との関連では分散分析を用いた。

結果

1) 対象者の基本属性

本研究における対象者は、福祉系の専門学校生であり、Table 1に示すとおり、男性54名(26.5%)、女性(73.5%)で女性が約7割である。学年については、1年生が88名(43.1%)、2年生が88名(43.1%)、3年生が28名(13.7%)である。この学校においては2年課程と3年課程があるために、3年生で回答者数が低くなっている。

どの学年においても90%以上の有効回答率であった。

Table 1 対象者の基本属性

		男性	女性	合計
1年生	度数	20	68	88
	%	9.80%	33.30%	43.10%
2年生	度数	23	65	88
	%	11.30%	31.90%	43.10%
3年生	度数	11	17	28
	%	5.40%	8.30%	13.70%
合計	度数	54	150	204
	%	26.50%	73.50%	100.00%

2) ホームレス、精神障害者イメージの平均値とその差の検定

学生の抱くホームレスイメージと精神障害者イメージの各項目の平均値と平均値の差の検定結果をTable 2に示す。まず、ホームレスイメージと精神障害者イメージの平均値の合計をみると、ホームレスのほうが、精神障害者イメージに比べて5.79点高くなっており、ホームレスのほうがやや否定的なイメージである。

つぎに、各項目で平均値の差に有意差が認められた項目のうち、精神障害者イメージで平均値の高かつ

Table 2 ホームレスのイメージと精神障害者のイメージの違い（対応のある t 検定）

	ホームレス		精神障害者		t 値	自由度	有意差
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
暖かい-冷たい	3.13	0.87	2.94	0.86	2.42	203	*
単純-複雑な	3.77	1.08	4.00	1.13	-2.36	202	*
きれい-汚い	4.07	0.99	2.73	0.66	16.63	203	**
明るい-暗い	3.60	1.04	3.43	1.00	1.95	202	*
陽気-陰気な	3.52	1.03	3.38	1.05	1.48	203	n.s.
安全-危険な	3.85	0.94	3.73	0.87	1.44	201	n.s.
良い-悪い	3.46	0.82	2.94	0.67	7.57	202	**
身近-縁遠い	3.50	1.20	3.15	1.10	3.49	203	**
怖くない-怖い	3.57	1.21	3.34	1.11	2.34	203	*
幸福-不幸な	3.76	0.83	3.22	0.71	7.95	202	**
活動的-迷惑でない	2.59	1.32	3.19	1.10	-5.03	203	**
迷惑でない-迷惑な	3.38	1.04	2.57	0.90	9.01	201	**
役立つ-役に立たない	3.40	0.89	2.99	0.73	5.85	202	**
穏やか-激しい	3.12	0.78	3.65	0.98	6.53	203	**
強い-弱い	3.13	1.08	3.50	0.99	3.86	203	**
容易-困難な	3.63	0.86	3.88	0.85	3.71	203	**
やわらかい-かたい	3.42	0.86	3.30	0.87	1.78	201	n.s.
にぎやか-寂しい	3.79	1.05	3.61	0.99	2.10	203	*
かわいらしい-憎らしい	3.20	0.59	2.82	0.52	7.48	203	**
親しみやすい-親みにくい	4.04	0.95	3.59	1.06	4.98	203	**
清潔-不潔な	4.42	0.73	2.70	0.73	23.66	203	**
意欲的-無気力な	3.44	1.11	3.34	1.01	0.97	203	n.s.
平均値の合計	77.79		72.00				

*p<0.05 **p<0.01

た項目は、「単純な-複雑な」(t=-2.36 df=202), 「穏やか-激しい」(t=-6.53 df=203), 「強い-弱い」(t=-3.86 df=203), 「容易-困難」(t=-3.71 df=203)の4つであった。一方、ホームレスイメージで平均値の高かった項目は、「暖かい-冷たい」(t=2.42 df=203), 「きれい-汚い」(t=16.63 df=203), 「明るい-暗い」(t=1.95 df=202), 「良い-悪い」(t=7.57 df=202), 「身近-縁遠い」(t=3.49 df=203), 「怖くない-怖い」(t=2.34 df=203), 「幸福-不幸な」(t=7.95 df=202), 「活動的-迷惑でない」(t=-5.03 df=203), 「迷惑でない-迷惑な」(t=9.01 df=201), 「役立つ-役に立たない」(t=5.85 df=202), 「にぎやか-寂しい」(t=2.10 df=203), 「かわいらしい-憎らしい」(t=7.48 df=203), 「親しみやすい-親みにくい」(t=4.98 df=203), 「清潔-不潔な」(t=23.66 df=203)の14つであった。このことから、学生は精神障害者イメージよりもホームレスイメージで否定的なイメージを抱いていることが分かった。

3) 各要因とホームレスイメージ項目との関連

①性別との関連性

性別とホームレスイメージとの関連性を検討するために、 χ^2 検定を行った。その結果を Table 3 に示す。「暖かい-冷たい」($\chi^2=10.12$ df=4), 「単純な-複雑な」($\chi^2=12.60$ df=4), 「陽気な-陰気な」($\chi^2=10.82$ df=4), 「安全-危険な」($\chi^2=10.80$ df=4), 「怖くない-怖い」($\chi^2=11.62$ df=4), 「容易な-困難な」($\chi^2=13.84$ df=4)の6項目で有意な関連がみられた。

また、性別による平均値の違いをみると、男性に比べて女性で平均値が高くなっており、否定的なイメージとなっていた。

②学年との関連性

学年とホームレスイメージとの関連性を検討するために分散分析を行った。その結果を Table 4 に示す。「単純な-複雑な」「安全な-危険な」「身近な-縁遠い」「穏やかな-激しい」の4項目以外の全ての項目で有意な関連がみられた。

また、学年別に平均値の差をみると、学年が上がるにつれて平均値は低下していた。つまり、1年生に比べて3年生で肯定的なイメージとなっていた。

Table 3 性別とホームレスイメージの関連

	χ^2 値	自由度	有意差	性別による平均値の差
暖かい-冷たい	10.12	4	*	女性>男性
単純-複雑な	12.60	4	*	女性>男性
きれい-汚い	5.55	4	n.s.	
明るい-暗い	3.17	4	n.s.	
陽気-陰気な	10.82	4	*	女性>男性
安全-危険な	10.80	4	*	女性>男性
良い-悪い	3.84	4	n.s.	
身近-縁遠い	5.52	4	n.s.	
怖くない-怖い	11.62	4	*	女性>男性
幸福-不幸な	1.09	4	n.s.	
活動的-迷惑でない	6.13	4	n.s.	
迷惑でない-迷惑な	7.34	4	n.s.	
役立つ-役に立たない	3.94	4	n.s.	
穏やか-激しい	2.46	4	n.s.	
強い-弱い	0.89	4	n.s.	
容易-困難な	13.84	4	*	女性>男性
やわらかい-かたい	1.98	4	n.s.	
にぎやか-寂しい	5.82	4	n.s.	
かわいらしい-憎らしい	0.47	4	n.s.	
親しみやすい-親みにくい	9.33	4	n.s.	
清潔-不潔な	5.52	4	n.s.	
意欲的-無気力な	3.23	4	n.s.	

* $p<0.05$

③「ホームレス支援への希望」との関連

「ホームレス支援への希望」とホームレスイメージとの関連性を検討するために分散分析を行った。その結果を Table 5 に示す。「単純な-複雑な」「明るい-暗い」「安全-危険な」「穏やかな-激しい」「強い-弱い」「容易な-困難な」「やわらかい-かたい」「にぎやか-寂しい」以外の全ての項目で有意な関連がみられた。

また、「ホームレス支援への希望」の強弱についてみると、ホームレス支援へ希望が強い学生のほうが、肯定的なイメージを抱いていることが分かった。

4) ホームレスイメージと精神障害者イメージの因子分析結果

まず、ホームレスイメージの因子分析（主成分分析、バリマックス回転）を行った。その結果を Table 6 に示す。スクリー基準に基づく固有値の変化と解釈可能性から6因子解を適当と判断した。また、各因子の信頼性を確認するために、クロンバックの内的整合性の信頼係数（ α 係数）を求めたところ、 $\alpha=0.551\sim 0.741$ と信頼性が確認された。また、この6因子の累積寄与率は57.06%であった。なお、

因子負荷量の絶対値が0.45以下の項目については削除した。

各因子の内容をみると、第1因子は、因子負荷量の高い順に「幸福な-不幸な」「身近な-縁遠い」「良い-悪い」などの6項目からなっており、これを「縁遠さ」因子と命名した。第2因子は、因子負荷量の高い順に「活動的な-迷惑でない」「意欲的-無気力な」「温かい-冷たい」などの4項目からなっており、これを「活動性」因子と命名した。第3因子は、因子負荷量の高い順に「やわらかい-かたい」「親しみやすい-親みにくい」「穏やかな-激しい」の3項目からなっており、これを「近寄り難さ」因子と命名した。第4因子は、因子負荷量の高い順に「明るい-暗い」「きれい-汚い」「陽気な-陰気な」の3項目からなっており、これを「陽気さ」因子と命名した。第5因子は、因子負荷量の高い順に「安全-危険な」「怖くない-怖い」の2項目からなり、これを「安全性」因子と命名した。最後に第6因子は、因子負荷量の高い順に「単純な-複雑な」「容易な-困難な」の2項目からなり、「困難さ」因子と命名した。

つぎに、精神障害者イメージの因子分析（主成分

Table 4 学年別のホームレスイメージ

	学年	度数	平均値	標準偏差	自由度	F 値	有意差
暖かいー冷たい	1	89	2.94	0.82	2	4.32	*
	2	87	3.32	0.91	202		
	3	29	3.14	0.79			
単純ー複雑な	1	88	3.81	1.03	2	0.10	n.s.
	2	87	3.74	1.14	201		
	3	29	3.76	1.09			
きれいー汚い	1	89	3.98	0.84	2	0.86	*
	2	87	4.17	1.07	202		
	3	29	4.07	1.13			
明るいー暗い	1	89	3.49	0.97	2	9.87	
	2	87	3.91	0.97	202		**
	3	29	3	1.17			
陽気ー陰気な	1	89	3.34	0.88	2	8.07	**
	2	87	3.84	1.06	202		
	3	29	3.14	1.16			
安全ー危険な	1	89	3.88	0.86	2	0.51	n.s.
	2	86	3.88	0.94	201		
	3	29	3.69	1.14			
良いー悪い	1	89	3.25	0.70	2	6.13	*
	2	87	3.67	0.87	202		
	3	29	3.52	0.87			
身近ー縁遠い	1	89	3.31	1.07	2	1.96	n.s.
	2	87	3.67	1.25	202		
	3	29	3.55	1.33			
怖くないー怖い	1	89	3.37	1.13	2	5.76	**
	2	87	3.89	1.18	202		
	3	29	3.21	1.32			
幸福ー不幸な	1	88	3.53	0.66	2	7.77	**
	2	87	4.01	0.92	201		
	3	29	3.69	0.85			
活動的ー迷惑でない	1	89	2.3	1.18	2	7.98	**
	2	87	3	1.39	202		
	3	29	2.21	1.24			
迷惑でないー迷惑な	1	89	3.15	0.92	2	4.20	*
	2	86	3.52	1.14	201		
	3	29	3.66	0.97			
役立つー役に立たない	1	89	3.12	0.74	2	8.40	**
	2	86	3.63	0.96	201		
	3	29	3.59	0.87			
穏やかー激しい	1	89	3	0.75	2	2.00	n.s.
	2	87	3.23	0.80	202		
	3	29	3.17	0.76			
強いー弱い	1	89	2.93	0.99	2	4.72	*
	2	87	3.17	1.17	202		
	3	29	3.62	0.90			
容易ー困難な	1	89	3.51	0.69	2	3.46	*
	2	87	3.82	0.92	202		
	3	29	3.48	1.06			
やわらかいーかたい	1	89	3.27	0.78	2	2.73	*
	2	86	3.57	0.93	201		
	3	29	3.45	0.83			
にぎやかー寂しい	1	89	3.6	0.99	2	4.67	*
	2	87	4.05	1.02	202		
	3	29	3.62	1.18			
かわいらしいー憎らしい	1	89	3.02	0.26	2	8.29	**
	2	87	3.37	0.75	202		
	3	29	3.28	0.65			
親しみやすいー親しみにくい	1	89	3.99	0.90	2	0.78	*
	2	87	4.14	1.00	202		
	3	29	3.93	0.96			
清潔ー不潔な	1	89	4.22	0.69	2	5.91	**
	2	87	4.55	0.79	202		
	3	29	4.62	0.56			
意欲的ー無気力な	1	89	3.15	1.04	2	7.18	**
	2	87	3.76	1.10	202		
	3	29	3.38	1.12			

*p<0.05 **p<0.01

Table 5 ホームレス支援の希望とイメージの関連

	度数	平均値	標準偏差	自由度	F 値	有意差	
暖かいー冷たい	1	24	3.46	0.98	3	8.39	**
	2	80	3.39	0.83			
	3	69	2.9	0.79			
	4	30	2.7	0.75			
単純ー複雑な	1	24	3.42	1.44	3	1.58	n.s.
	2	80	3.69	1.00			
	3	68	3.93	0.92			
	4	30	3.87	1.25			
きれいー汚い	1	24	4.67	0.92	3	4.63	**
	2	80	4.1	1.06			
	3	69	3.83	0.92			
	4	30	4.13	0.78			
明るいー暗い	1	24	3.96	1.23	3	1.97	n.s.
	2	80	3.69	0.99			
	3	69	3.48	1.01			
	4	30	3.37	1.07			
陽気ー陰気な	1	24	4.08	1.18	3	4.29	**
	2	80	3.64	0.93			
	3	69	3.33	0.98			
	4	30	3.27	1.11			
安全ー危険な	1	23	3.91	1.20	3	0.81	n.s.
	2	80	3.83	0.87			
	3	69	3.94	0.91			
	4	30	3.63	0.96			
良いー悪い	1	24	3.92	0.97	3	6.13	**
	2	80	3.61	0.85			
	3	69	3.25	0.63			
	4	30	3.23	0.82			
身近ー縁遠い	1	24	3.88	1.23	3	6.70	**
	2	80	3.83	1.05			
	3	69	3.06	1.19			
	4	30	3.3	1.24			
怖くないー怖い	1	24	3.92	1.38	3	3.82	*
	2	80	3.78	0.99			
	3	69	3.39	1.24			
	4	30	3.07	1.34			
幸福ー不幸な	1	24	4.21	1.02	3	6.52	**
	2	79	3.9	0.79			
	3	69	3.65	0.78			
	4	30	3.33	0.66			
活動的ー迷惑でない	1	24	2.92	1.44	3	4.51	**
	2	80	2.78	1.33			
	3	69	2.58	1.28			
	4	30	1.83	1.05			
迷惑でないー迷惑な	1	24	4.04	1.00	3	8.00	**
	2	80	3.58	0.88			
	3	68	3.03	1.05			
	4	30	3.13	1.14			
役立つー役に立たない	1	24	3.92	0.97	3	6.94	**
	2	80	3.56	0.87			
	3	68	3.21	0.76			
	4	30	3.03	0.89			
穏やかー激しい	1	24	3.38	0.92	3	1.14	n.s.
	2	80	3.06	0.72			
	3	69	3.14	0.73			
	4	30	3.03	0.93			
強いー弱い	1	24	3.25	1.42	3	1.23	n.s.
	2	80	3.28	1.03			
	3	69	3.03	0.91			
	4	30	2.9	1.27			
容易ー困難な	1	24	3.54	1.22	3	0.08	n.s.
	2	80	3.64	0.83			
	3	69	3.62	0.79			
	4	30	3.63	0.77			
やわらかいーかたい	1	24	3.67	1.01	3	1.20	n.s.
	2	80	3.41	0.74			
	3	68	3.44	0.78			
	4	30	3.23	1.04			
にぎやかー寂しい	1	24	3.92	1.28	3	2.43	n.s.
	2	80	3.91	0.98			
	3	69	3.8	0.95			
	4	30	3.33	1.16			
かわいらしいー憎らしい	1	24	3.71	0.86	3	11.86	**
	2	80	3.3	0.60			
	3	69	3.04	0.32			
	4	30	2.93	0.52			
親しみやすいー親しみにくい	1	24	4.38	1.06	3	3.98	**
	2	80	4.14	0.85			
	3	69	4.04	0.93			
	4	30	3.57	0.97			
清潔ー不潔な	1	24	4.75	0.90	3	4.03	**
	2	80	4.51	0.60			
	3	69	4.33	0.82			
	4	30	4.13	0.63			
意欲的ー無気力な	1	24	3.88	1.12	3	5.86	**
	2	80	3.63	0.99			
	3	69	3.38	1.11			
	4	30	2.8	1.10			

*p<0.05 **p<0.01

Table 6 ホームレスに対するイメージの因子分析結果

	1 factor	2 factor	3 factor	4 factor	5 factor	6 factor	共通性
幸福-不幸な	0.68	0.27	0.02	0.06	0.07	0.21	0.43
身近-縁遠い	0.66	0.02	0.10	0.11	-0.04	-0.15	0.53
良い-悪い	0.59	0.07	0.21	0.10	0.30	-0.25	0.63
清潔-不潔な	0.59	0.15	0.02	0.27	0.15	0.19	0.79
役立つ-役に立たない	0.57	0.33	0.15	-0.02	0.22	0.01	0.67
迷惑でない-迷惑な	0.49	-0.02	0.28	0.20	0.32	-0.20	0.63
活動的-迷惑でない	0.08	0.76	-0.05	0.08	0.24	0.01	0.56
意欲的-無気力な	0.18	0.76	0.07	0.11	0.03	-0.06	0.49
温かい-冷たい	0.13	0.54	0.31	0.07	0.07	-0.12	0.62
にぎやか-寂しい	0.17	0.48	0.05	0.39	-0.25	0.34	0.58
強い-弱い	0.33	0.34	0.06	0.09	-0.06	-0.32	0.35
やわらかい-かたい	0.02	0.07	0.84	0.04	-0.01	0.10	0.51
親しみやすい-親しみにくい	0.10	0.20	0.62	0.05	0.29	0.09	0.51
穏やか-激しい	0.36	-0.02	0.60	0.11	0.02	0.12	0.51
かわいらしい-憎らしい	0.35	0.30	0.42	0.01	0.33	-0.31	0.65
明るい-暗い	0.05	0.29	0.13	0.81	0.07	-0.15	0.54
きれい-汚い	0.18	-0.14	-0.09	0.73	0.19	-0.03	0.72
陽気-陰気な	0.20	0.25	0.20	0.72	0.08	-0.01	0.60
安全-危険な	0.28	0.02	0.05	0.13	0.72	0.09	0.59
怖くない-怖い	0.06	0.21	0.17	0.13	0.71	0.13	0.53
単純-複雑な	-0.04	-0.08	0.04	-0.14	0.05	0.71	0.49
容易-困難な	0.05	0.01	0.37	0.08	0.16	0.60	0.63
累積寄与率 (%)	25.43	33.76	40.64	47.11	52.34	57.06	
α 係数	0.741	0.661	0.636	0.745	0.572	0.551	

Table 7 精神障害者に対するイメージの因子分析結果

	1 factor	2 factor	3 factor	4 factor	5 factor	共通性
明るい-暗い	0.78	0.14	0.26	0.06	0.07	0.61
陽気-陰気な	0.74	0.13	0.28	0.07	0.11	0.45
にぎやか-寂しい	0.73	0.17	0.13	0.00	0.07	0.62
意欲的-無気力な	0.72	0.27	0.20	0.18	0.12	0.71
活動的-迷惑でない	0.71	0.08	0.10	0.15	0.07	0.66
強い-弱い	0.70	0.13	-0.22	-0.02	-0.32	0.56
幸福-不幸な	0.51	0.17	0.21	0.01	0.24	0.60
穏やか-激しい	0.12	0.74	0.00	0.07	0.12	0.54
安全-危険な	0.14	0.68	0.26	0.03	0.04	0.52
容易-困難な	0.31	0.67	0.02	-0.08	-0.02	0.39
やわらかい-かたい	0.17	0.59	0.33	0.23	0.07	0.55
かわいらしい-憎らしい	0.14	0.08	0.75	0.24	0.11	0.48
良い-悪い	0.13	0.18	0.71	0.17	-0.14	0.56
温かい-冷たい	0.30	0.15	0.70	0.08	0.11	0.59
親しみやすい-親しみにくい	0.41	0.32	0.47	0.14	0.34	0.66
清潔-不潔な	0.10	0.00	0.07	0.82	0.05	0.55
きれい-汚い	0.00	-0.02	0.19	0.76	-0.02	0.54
役立つ-役に立たない	0.32	0.36	0.25	0.50	-0.08	0.59
迷惑でない-迷惑な	0.07	0.43	0.14	0.49	0.20	0.66
身近-縁遠い	0.22	0.12	0.01	0.09	0.69	0.63
怖くない-怖い	0.15	0.37	0.27	-0.02	0.54	0.68
単純-複雑な	0.24	0.29	0.32	0.04	-0.45	0.67
累積寄与率 (%)	18.92	31.23	42.84	51.85	58.21	
α 係数	0.774	0.686	0.636	0.611	0.592	

分析、バリマックス回転)を行った結果を Table 7 に示す。こちらもホームレスイメージと同様に、スクリー基準に基づく固有値の変化と解釈可能性から 5 因子解を適当と判断した。また、各因子の信頼性を確認するために、クロンバックの内的整合性の信頼係数 (α 係数) を求めたところ、 $\alpha = 0.592 \sim 0.774$ と信頼性が確認された。また、この 5 因子の累積寄与率は 58.21% であった。

各因子の内容をみると、第 1 因子は、因子負荷量の高い順に「明るい-暗い」「陽気な-陰気な」「にぎやかな-寂しい」などの 7 項目からなっており、これを「活動性」因子と命名した。第 2 因子は、因子負荷量の高い順に「穏やかな-激しい」「安全な-危険な」「容易-困難な」などの 4 項目からなっており、これを「大人しさ」因子と命名した。第 3 因子は、因子負荷量の高い順に「かわいらしい-憎らしい」「良い-悪い」「温かい-冷たい」などの 4 項目からなっており、これを「近寄り難さ」因子と命名した。第 4 因子は、因子負荷量の高い順に「清潔な-不潔な」「きれいな-汚い」「役立つ-役立たない」などの 4 項目からなり、これを「清潔感」因子と命名した。第 5 因子は「身近な-縁遠い」「怖くない-怖い」「単純な-複雑な」の 3 項目からなっており、これを「縁遠さ」因子と命名した。

以上のような結果から分かったことは、ホームレスイメージも精神障害者イメージもともに多様であることがわかる。また、双方に共通するイメージとして「縁遠さ」「活動性」「近寄り難さ」がわかった。このことは学生からみて、関係性を表すもので共通していたと言える。

考 察

1) ホームレスを対象とした福祉教育の現状について

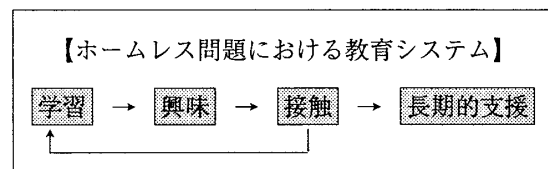
学生とホームレス問題とを隔てているものに、対象者との関係性の希薄さ、情報の少なさが原因となっていると考えられるが、これは現在の社会福祉における教育システムが大きく影響しているものと考えられる。福祉支援の対象としてまず真っ先にあがってくる高齢者、障害者、児童においてはそれぞれの科目についての基準が定められている。しかしなが

らホームレスについての専門科目としては、教育基準にも定められていない。ホームレスの現状においては、社会福祉原論、社会保障論、公的扶助論などにより、知識としての教授を多少受けることが出来るものの、具体的支援の方法については、福祉教育の場においてほとんど触れられていないのが現状である。

本研究においても、学生のホームレスイメージの内容では、対象者との関係性の希薄さ、情報の少なさが実証された。

2) ホームレスイメージを用いた教育の在り方について

ホームレスへのイメージについては、小玉 徹⁴⁾によって明らかにされている。日本のホームレス問題は、あきらかに不況にともなう失業の増大に関係がある。にもかかわらず、依然としてホームレスを「怠け者」あるいは「好きでやっている」とみている市民も少なくない。ホームレスに至った理由を不況や倒産という昨今の客観的な経済情勢に帰着させつつも、市民のあいだには、その要因を野宿者自身に帰する考えが広くゆきわたっているのである。これは、ホームレス問題の社会的背景には目を向けず、個人的要因としてのみとらえられているということである。ホームレスを「よく見かける」が直接、「関わりを持ったことはない」という者が多いことからわかるように、一般市民とホームレスとの社会的距離は物理的な近接性に反して大きいのである。



学生の持つホームレスイメージとして「縁遠さ」「活動性」「近寄り難さ」があがってきたが、これは現在の学習システムが興味を持たせるようなものではないために、結果、距離感を感じてしまうことになっているのだと思われる。よって、現在の福祉教育における学習方法と内容の再検討を行わなければならない。視聴覚教材の活用やグループワークによる演習により、ホームレス問題に対し興味を持ち、また、ボランティアへの参加などを通して問題の困

難さ重要さに気付き、更なる学習へとつなげていくシステムの構築が必要であると思われる。それにはまず、昨今社会現象となっているニート・フリーターの問題を含め、ホームレス問題を自分自身にも関係する身近な事柄として取り組みを行っていく必要性があると考えられる。

注

- 1) ホームレスの自立を支援する相談員養成研修会委員会編『ホームレスの自立を支援する相談員の手引き』日本社会福祉士会 2005年
- 2) 岩田正美・岡部卓・清水浩一編『貧困問題とソーシャルワーク』有斐閣 2003年
- 3) 江口英一著『社会福祉と貧困』法律文化社 1981年
- 4) 小玉 徹著『ホームレス問題 何が問われているか』岩波ブックレット

参考文献

庄司洋子・杉村宏・藤村正之著『貧困・不平等と社会福祉』有斐閣 1997年
江口英一著『現代の「低所得層」上』未来社 1979年

江口英一著『現代の「低所得層」中』未来社 1980年
江口英一著『現代の「低所得層」下』未来社 1980年
小玉徹・中村健吾・都留民子・平川茂著『欧米のホームレス問題（上）—実態と政策—』法律文化社 2003年
日本社会保障法学会編『住居保障法・公的扶助法』法律文化社 2001年
Jonathan Kozol 著 増子光訳『家のない家族』晶文社 1991年
古川孝順『社会福祉学』誠信書房 2002年
Edward Fowler 著 川島めぐみ訳『山谷ブルース 〈寄せ場〉の文化人類学』洋泉社 1998年
平岡蕃・宮川数君・黒木保博・松本恵美子著『対人援助』ミネルヴァ書房 1988年
岩上真珠・川崎賢一・藤村正之・要田洋江編『ソーシャルワーカーのための社会学』有斐閣 2003年
吉田久一著『日本貧困史』川島書店 1993年
『現代の貧困と公的扶助行政』ミネルヴァ書房 1997年
厚生統計協会『国民の福祉の動向』厚生指標臨時増刊 第51巻第12号 通巻第803号 2004年